



郡山中学校

学校だより

令和5年2月28日発行
令和4年度 第5号
鹿児島市郡山町 1500 番地
TEL 298-2004 FAX 298-2012
<https://www.keinet.com/koriyac/>

「定期テスト」は本当に必要か？

校長 内 健史

- 2月24日の第1・2学年PTAで、来年度から郡山中の「学び」が変わりますということをお伝えしました。具体的には、定期テストをなくし、各教科の単元テストで学習の達成度を評価し、実力テストで学力の定着と学力・進路を保障することを目指します、ということ等をお話ししました。
- これまでもお伝えしてきたとおり、「確かな学力」を育成することが本校の喫緊の課題です。その課題の解決に取り組む中で、「定期テストはその手段として適切で、本当に必要なものか？」「手段がいつのまにか目的になっていないか？」という問題意識が生まれ、四つの視点から定期テストの意味を見直しました。その内容を2回に分けて詳しくお伝えします。

視点① 定期テストによって「学力の定着（学習成果を持続的に維持）」を図れているか？

- ・ どのような学習パターンを習得して（させて）いるか？ … 直前のまとめた勉強（部活動停止等）、テスト前だけの学習計画の作成、テストが終わったら忘れてしまう、やらされている学習 等
- ・ 日々の単元の学習（授業）において「わからない」と「できない」が積み重なった状態で受ける定期テストによって、無力感や自信喪失、学びを避けることを生み出していないか？

視点② 定期テストによって望ましい「学習観」が育っているか？

- ・ 点数を取るためのテスト勉強（一夜漬け）、定期テスト（点数、評定）による学習への動機づけ
… 「テスト前（中）だから勉強する」「テストが終わったら忘れる」「テストに出るか？」などの生徒の言葉
「テスト範囲を済ませる」「テストがあるから」「ここテストに出ます（他の内容は重要でない？）」などの教師の言葉

（次号に続きます）

生き方に関する講話（2/1）

「さまざまな生き方・考え方に触れ、自己の生き方を考えていく力を養ってほしい」という思いから、地元の明桜館高校の美術教師山下晴道先生を講師にお招きし、講話をしていただきました。

山下先生は油絵が専門で県内の美術展での受賞も多く、県の海外派遣美術留学生として1年間欧州留学をされた経歴ももっていらっしゃいます。

山下先生のこれまでの生き方や芸術に対する向き合い方などのお話を聞いて、生徒たちも「たくさんの苦しい思いや悔しい思いをして、今の自分にたどりつくことができたということに感動した」「自分がやりたいことを恐れず、思い切りやって後悔しないように生きていきたい」「今までは面倒なことややりたくないものに手を付けなかったけれど、少しでもいいから挑戦をしていく自分になれるよう頑張っていきたい」等の感想を綴る等、自分の生き方について深く考える良い機会になりました。



一年生～職業講話(1/31)

社会の第一線で活躍される方に職業についてのお話を伺い、進路について考える機会とするため、郡山地域にお住まいの山下 要さん（鹿児島市議会議員）と野元 尚巳さん（かごしまカヤックス代表）にご来校いただき、講話を伺いました。お二人のお話から、生徒は仕事に真摯に向かい合い努力し、精一杯やりきったといえるまで取り組んでいらっしゃる生き方に直に触れることができました。

感想には「自分に嘘をつかずにチャレンジし続けることでうまくいくことを学んだ」「自分で成し遂げたことを自慢しないでも、どこかで評価されているということに共感できた。」「成功の逆は失敗ではない、何もしないことだ」という言葉がすごく共感が持てた」等の文章が綴られており、真剣に働くことのかっこよさを感じたり、一生懸命活動している人の言葉に感銘を受けたりしていました。



入学説明会(1/27)

中学校生活に対する不安を軽減し、4月からの学校生活をスムーズにスタートできることをねらいにして、小学6年生と保護者を対象に3年振りに実施しました。

午前中は郡山小学校で郡山・南方・花尾の三校交流学習を行い、その中で中学校の教師による数学と英語の授業体験も行いました。

午後の説明会では、生徒会役員と1年生代表を中心にインタビューやクイズで中学校生活の紹介や説明を行ったり、職員が中学校生活の心得や入学事務等の説明を行ったりしました。6年生からは「1年生のインタビューが参考になった」「中学生になるのが楽しみ」「先輩たちに会えてうれしかった」「勉強している姿がとても楽しそうにしている、楽しみだなと思った」等、中学校生活を楽しみにしている様子が伺えました。



鹿児島をまるごと味わう学校給食週間(1/23)

県では毎年1月24日の学校給食記念日を含む1週間を「鹿児島をまるごと味わう学校給食週間」として、さまざまな行事を行っています。

今回、校区内の末吉畜産様から牛肉の提供をいただき、地元の生産者の方々が育てた白菜や深ネギと一緒にすき焼きにいただきました。当日は、生産者の末吉寛章さんをはじめ、県農政課の方や郡山給食部会の方など十数名の方が来校され、生徒たちが地元の食材を味わう様子を参観されたり生産者の方と意見交換を行ったりしました。



2学期 学校生活に関する保護者アンケートを受けて

2学期末に実施した学校生活に関するアンケートにおいて生徒や保護者の皆様からいただいた評価結果をもとに、各主任を中心に本校教員で課題把握と改善策の検討を行いました。現在、以下の内容で取組を進めています。

【教育活動全般】

1 学力の定着・向上

- ・ 論理的思考力、言語力をつける取組
- ・ 各授業（シンキングツールの活用、スピーチの充実など）
- ・ 総合的な学習での取組（課題解決学習）

2 適切な質と量の宿題（課題）

- ・ タブレットの活用
- ・ 個別最適化された内容への転換
- ・ 教科間の連携と情報共有

3 学校運営協議会

- ・ 学校HP等での公開、学級（学年）通信を利用した周知

【学力向上】

1 家庭学習

- ・ 何のために学習するのかという意味付け
- ・ 実力テストの実施
- ・ 各教科の学習の手引きの見直し
- ・ 学習の5規則の見直し
- ・ 時間設定の見直し（学習の質と量）

2 教育の情報化の見直し

- ・ 各教科での活用の位置づけ
- ・ 情報モラル教育の内容の具体化と明示
- ・ 学びポケットの活用（通信等の配布に利用）

【生徒指導】

1 教育活動全体をとおした取組

- ・ 授業や学校行事、生徒会活動、部活動等で、多くの仕掛けを設定し、自己肯定感や達成感を体感させる場づくりを年間を通して行う。

2 生活指導のあり方

- ・ 信頼度（学年職員のみとまり度）を高める。全体での共通実践の周知徹底を図り、全体・個への指導の一貫性を維持する。

3 生徒の心と体を守る命の教育の充実

- ・ 積極的な生徒指導、適宜の情報の提供・共有を徹底し、内容を可視化する。

【保健指導】

家庭での生活のあり方

- ・ 学習の質や生活リズムの確立に向けた改善（スマホを見ながら学習をしていないか等）
- ・ 親子講演会の実施（生活リズム、スマホ・ゲーム等の使い方について）や生徒会活動での話し合い。

